

2025 年度 事業報告（各委員会活動報告）

1 総務委員会（委員長：牧野孝祐）

- ①会長、副会長、各委員長、顧問で構成した総務委員会を毎月理事会の1週間前に招集(会議室及びオンライン会議)し、委員会等からの様々な提案事項を検討・審議し、その結果を理事会へ報告または上程した。また、各委員会間にまたがるような日本人会の運営上の課題や中長期の各種課題に対して議論を行い、必要に応じ継続的に審議するようにした。
- ②理事会議事録を作成し、理事会の検討事項・審議内容を正確に記録した。
- ③その他
 - ・2025 年 5 月：海外における放送大学での学修機会の周知
 - ・2025 年 7 月：事務局長の公募
 - ・2025 年 8 月：アジア域内事務局長会議報告
 - ・2025 年 12 月：事務局長の採用
 - ・2026 年 2 月：令孫の家族会員追加について、JCKL の許認可・ライセンス一覧表の更新
 - ・2026 年 3 月：日本人会の保険付保、非常時対応マニュアルの確認

1-1 規約関係（担当：中林透/鈴木俊文）

- ・2025 年 5 月：会則 21 条婦人部会の廃止

1-2 セカンドホーム関係（担当：土川敦司）

特になし

2 企画広報委員会（委員長：牧野孝祐/桑川勇樹）

- ・2025 年 5 月 3 日（土）：こどもの日イベントの実施、来場者約 1,000 名
- ・2025 年 10 月 18 日（土）：秋の懇親会の実施、参加者 110 名
- ・2025 年 12 月 13 日（土）：クリスマス会の実施、来場者約 1,000 名

2-1 会員関係（担当：松尾義裕）

偶数月に開催している「新規入会者の集い」は、6 回実施。
合計 324 名（134 世帯）の参加があった。

2-2 ニュースレター編集委員会（編集長：土川敦司）

- ・毎月初旬にホームページへ掲載、E-mail にて会員へのお知らせを発信してきた。
- ・今年度の編集委員会は対面にて、2 か月に 1 回 ボランティア編集員によるニュースレター編集会議を招集し、毎号の特集内容、その時期にあったコンテンツを検討、編集方針を決定した。この決定内容に従い、編集委員による取材活動、原稿の作成を実施。また寄稿については原稿の作成依頼を関係機関・諸氏に行い、編集・校正作業を実施した。

3 財務委員会（委員長：奥田元秀）

- ・定例理事会にて月次財務報告を行った。
- ・2026 年 3 月：期末処理として、不良債権償却 RM318、雑益計上 RM33 を行った。
- ・2025 年度（2026 年 3 月 31 日終了）の決算は約 2 万 3 千リンギの現金収支マイナス、減価償却費計上後の税後損益はマイナス 38 万 8 千リンギという結果であった。

4 クラブハウス委員会（委員長：平田順久）

- ・2025 年 7 月：KL 日本人会敷地内、幼稚園園庭の大木伐採
- ・2025 年 12 月：会館東側斜面点検を行い、斜面の状態に問題はないとの結果を確認
- ・2026 年 2 月・3 月：隣地の境界線を越えの建設物について DBKL へのレター出状

4-1 クラブハウス将来計画小委員会（委員長：平田順久）

2025 年 5 月：2025 年 3 月 31 日終了事業年度の決算で 35 万 6 千リングの現金収支プラスとなったことから、これを新たに積み立てることを理事会に提案、承認を得た。2025 年 6 月第 61 回年次総会で積立金の残高が 400 万 7 千リングとなっていることについて報告を行った。

5 店舗委員会（委員長：和田見大作）

- ・2026 年 1 月：テナント懇談会実施
- ・2026 年 3 月：テナント家賃改定（3 年契約更新）

6 文化活動委員会（委員長：松井智嗣）

- ・2026 年 3 月末現在、部活動：15、同好会活動：31 合計：46 の部・同好会が活動
新規発足 2 件、ラテンダンスサークル同好会、大人のバレエ同好会
休止中 1 件：バラードバンド、廃止 1 件：尺八同好会
- ・イベント申請：5 件
- ・2025 年度日本語講座は、10 月スタートクラスは 1 学期・2 学期ともに 3 クラス開講
- ・料理教室 2 回、パティッククラス大人 2 回、子供 4 回実施
- ・2025 年 7 月：JFKL 日本映画祭への広報協力
- ・2025 年 9 月：マラヤ大学「日本人家庭訪問実施」への協力
- ・2025 年 11 月：JFKL 日本語スキットコンテストへの協力（審査員派遣）

7 スポーツ活動委員会（委員長：柏原貞俊）

- ・2026 年 3 月末現在、部活動：10 部、10 同好会、合計：20 部・同好会が活動。
新規発足 2 件：ゴルフ木馬会同好会、Enjoy!ピククルボール同好会
廃止 2 件、KL 走馬会同好会、ラグビークラブ“ハリマオ”同好会
- ・イベント申請：3 件、・JSKL 施設利用：2 件

8 学校委員会（委員長：森本昌明/細根真一）

1）園児・児童・生徒数の推移

幼稚部の園児は前年比 23 名増。一方で 25 年 3 月に増加傾向になった小学部・中学部はともに -9 名と微減。小学部は依然として 24 年 3 月より 24 名増員しているものの、中学部は 24 年 3 月並みとなった。幼稚部園児の増加で全体として前年比 5 名増。

2023～2025 年度 園児・児童・生徒数の推移

人数（カッコ内は前年比）

年 月	幼稚部	小学部	中学部	合 計
2023 年 3 月	63	395	91	549
2024 年 3 月	56 (-7)	373 (-22)	106 (+15)	535 (-6)
2025 年 3 月	51 (-5)	406 (+33)	115 (+9)	572 (+37)
2026 年 3 月	74 (+23)	397 (-9)	106 (-9)	577 (+5)

2) 学校教育目標と教育の重点

今年度の学校教育目標は、従来と変わらず「たくましいからだ、ゆたかな心、優れた知性と国際性を備えた児童・生徒の育成」を掲げ、その実現に向けたビジョンとして、以下の2つの柱を中心に学校経営を進めた。

まず、「めざす学校像」として「入ってよかった、通わせてよかった、勤めてよかった JSKL」を掲げ、児童・生徒、保護者、教職員のすべてにとって誇りとなる学校づくりを推進した。

次に、「めざす子どもの姿」として、「元気で最後まで取り組める子」「誰にでもやさしくできる子」「夢を持って世界へはばたける子」の3つの目標を設定した。これに基づき、日常の授業や学校行事、現地校との交流などを通じて、子どもたちの主体性や社会性、そして国際的な視野を育む教育活動を展開した。

3) 教育活動

在外教育施設として、子どもや保護者の期待に応える学校づくり、魅力ある学校づくりを目指し、昨年度は以下の5つの重点項目に取り組んだ。

1. ICT 教育の充実

本年度はデバイス持参の考えを小中学部にも広げ、全学年においてクロムブックや iPad などの ICT 機器を1人1台使用できる環境を整備した。これにより、ICTを活用した授業実践を通じて、情報活用能力や問題発見・解決能力といった、学習の基盤となる資質・能力の着実な育成を図っている。

2. 英語教育の充実

全学年においてローカル校との国際交流会を実施。日頃の EC (English Communication) 授業で培った力を活かし、英語を用いた交流活動に取り組んだことで、英会話を中心とする実践的なコミュニケーション能力の向上につながった。

3. 国際交流学習の実施

多様な文化に触れ、国際的な視野を広げる機会として、ローカル校や他国の日本人学校との交流を継続的に実施した。こうした交流は、子どもたちの多文化理解や国際感覚の育成に大きく貢献している。

4. 筑波大学付属高校との教育連携

昨年度に引き続き、筑波大学附属坂戸高等学校と授業交流やその他の教育活動連携を行った。小中高の連携授業で、児童生徒が一步先の学びに挑戦した。

5. 心の教育の充実

「ゆたかな心の育成」を目標に掲げ、道徳教育の充実に取り組んだ。学校全体の道徳教育の構想を見直し、すべての教育活動を通じて道徳性を養い、互いに学び合い、高め合う集団の形成を目指した継続的な指導を行った。

6. イマージョンスイミング (IS) の充実

英語環境の中で水泳を行うイマージョンスイミング (IS) では、楽しみながら自然に英語に親しむ体験を通して、身体活動と言語活動の充実を図った。

7. 特別支援教育と通級指導教室の充実

「誰一人取り残さない学校づくり」の理念のもと、小学部1・中学部1計2学級の特別支援学級(知的)の設置と通級指導教室の充実を行った。文科省への要望を継続しつつ、多様な学びの形を創る取組を進めた。

8. 保健室2名体制

保健室を応急処置の場から安心できるセーフスペースとして整備、保険補助員を配備し、児童生徒の心理的安全性の向上を図った。

9. 業務改善

教育課程の一部見直しや会議の精選、勤務時間の見直しなどを進めることで、教職員が本来の業務である子どもへの指導や支援により多くの時間をかけられるよう、業務改善を推進した。

4) 2025 年度（令和 7 年度）経営状況

児童生徒数の回復には時間を要すると想定し、昨年度に続き授業料・学校維持資金負担金を値上げしたが収入実績は計画を 1.6% 下回った。小中学部の児童生徒数が想定を下回った事が原因。一方で 25 年度政府援助金の年度内回収を促進し（計画比 138%）総収入は計画比達成。支出は管理費・教育費とも予算内に納めて収支を黒字で着地させることが出来た。

① 学校会計（小中学部）。

- ・年間平均児童生徒数は予想から下振れ（498 名 想定比 96%）。
- ・教員の急な退職や休職の延長等で人件費は予算より減少した。
- ・設備維持費や公共料金の値上げリスクを計画に織り込んだ為、支出は計画内運用ができた。
- ・3 年計画の大型老朽化工事は予定通り 2 年目を完了。3 年目の 26 年度は水道配管を残す。

② 学校会計（幼稚部）

年間平均園児数は予想から上振れ（67 名 想定比 110%）し増収。小中学部の児童生徒数減による減収を最小限に抑えた。

9 教育施設管理委員会（委員長：神林義之）

- ・2025 年 12 月：帝京マレーシアとの覚書更新。（会館の使用に関する 1 年間の覚書）
 - ・2026 年 3 月：帝京マレーシア奨学金制度についてのご紹介
- 全日制で日本語を学ぶ学生の数や日本人園児数の減少により、帝京日本語学院及び KL 幼稚園とも大幅な賃料増加に耐えうる状況ではない。

10 福利厚生委員会（委員長：菅原美奈子/高野光一）

- ・はぐくみ会：10 回開催
- ・出産準備教室：6 月、11 月、2 月の 3 回実施
- ・オンライン無料健康相談室（バトよしみ先生）：11 回実施（5 月を除く月 1 回）2025 年度は、合計 27 名の相談を受けていただいた。

11 日本人墓地維持管理委員会（委員長：藤井純一）

【慰霊祭関連】

- ・2025 年 9 月 21 日：秋季慰霊祭：広島県呉市、浄土寺副住職、良輝和尚の先導により実施
- ・2026 年 3 月 1 日：春季慰霊祭：広島県呉市、浄土寺副住職、良輝和尚の先導により実施
- ・2026 年 3 月：拡大墓地委委員会を設置し、日本人墓地の管理・運営についての検討開始（年 2 回（春季・秋季）の慰霊祭は従前通り日本人会主催で継続的に開催する方針を確認したが、昨今の情勢に鑑み、日本人会本体の負担による日本からの僧侶招請は 2026 年 9 月の秋季慰霊祭を以て一旦区切る方向となった）

【日本からの墓地訪問】

- 2025 年 5 月：日本の防衛研究所の自衛官一行
- 2025 年 9 月：山本啓介参議院議員
- 2025 年 10 月：高市早苗総理大臣
- 2025 年 12 月：天草ミオ氏（画家）墓地訪問
- 2026 年 1 月：都立農産高校の先生と生徒一行（樹木等の剪定及び敷地内清掃ボランティア活動）

【管理人との業務委託契約の更新】

- ・2026 年 3 月：現管理人 Mr. Lee との契約を延長（2026 年 4 月～2027 年 3 月）

- 12 IT システム委員会（委員長：桑川勇樹/荘司憲一）**
・会員情報システム：e-invoice ダウンロード機能追加
- 13 盆踊り実行委員会（2025）（委員長：中林徹）**
2025 年 7 月 12 日（土）及び 13 日（日）16 時～22 時、Sunway Pyramid Shopping Mall の平面駐車場にて、Sunway との共催にて、第 49 回盆踊り大会を開催。大きな事故などなく成功裏に終了した。
- 14 バザー実行委員会（2025）（委員長：中林透/安光晋作）**
2025 年 11 月 2 日（日）10 時 30 分～15 時、第 53 回チャリティバザーを Eastin Hotel にて開催した。当日は来場者約 800 名（関係者ボランティア含む）
バザー当日売上げ収益と皆様からの現金ご寄付から次年度の会計監査費と税務申告費の積立金等を除いて、約 RM95,000 を 4 ヶ所の福祉施設に寄付する提案を、JCKL 慈善基金に対し行った。
- 15 新年会実行委員会（2026）（委員長：浅井隆裕）**
2026 年 1 月 10 日（土）に第 31 回目となる新年会を日本人会館にて開催した。
昨年同様、多くの来場者が訪れるなか、新年を祝う各種イベントを実施した。
ステージイベントとしてアクロバット・ライオンダンス、JSKL 園児及び部同好会の発表に加え、変面ショーを行った。会館内ではお茶席を設けたほか、恒例の餅つき体験、スーパーボールすくい、射的・おみくじ・ふくわらいなど新年にふさわしいイベントもおこなった。
また駐車場では飲食ブースなどを 12 ブース設置し、日本食を中心に提供した。
大きな事件、事故もなく無事に終了した。
- 16 海外安全関係（担当：廣沢 美佳）**
マレーシア及び日本政府の発表、注意喚起や情報提供を行った。
- 17 チャリティ活動委員会（委員長：細根真一/永廣一記）**
・5 月：チャリティ活動サポーターを募集
・6 月：寄付先施設訪問
・9 月：JSKL にて学用品リサイクルセールを実施、売り上げ（RM621）は慈善基金に寄付
・9 月～11 月：チャリティバザー実施に向けた準備、バザー当日ボランティア
・12 月：バザー収益金の寄付先について、慈善基金に対し提案
次年度バザーサポーター（手芸品づくり）の募集
・1 月：ドネーション贈呈式
・2 月：バザーサポーターへのオリエンテーション
・3 月：学用品リサイクルセール準備
- 18 全マレーシア日本人会（担当：藤原毅/牧野孝祐）**
第 46 回目のマレーシア全日本人会連絡会が、2025 年 10 月 3 日（金）KL 日本人会会議室にて開催された。全マレーシア 12 か所の日本人会のうち、今回は 6 か所の代表が参加した。（東マレーシアからの参加はなかった）また、同時に大使館主催の第 44 回安全対策協議会が開催され、外務省海外安全ホームページから、感染危険情報等について、またマレーシアの安全情報が共有された。

以上